

AIの動作・分析・利用等の説明に関する意識調査

2026年6月1日

独立行政法人 情報処理推進機構

セキュリティセンター

1. 要約

AIシステム利用において、学習の**透明性**や、AI動作の**信頼性・利用**に関する**説明責任**の重要性が高まっているが、透明性や説明責任がAI利用者にどう意識され、実践されているかの実態は知られていない。IPAはこの観点に基づき、AI動作・利用の説明のあり方について2025年7月に意識調査を実施した。同調査では、①生成AI利用が企業規模・業種を問わず広く普及、②利用経験3年未満のAI初心者が業務利用の70%を超える、③基本知識の説明への要請が大、等の知見を得たが、20代の回答が少ない、等の偏りがあったため、**2026年3月に再調査**を実施した。調査対象は**企業の従業員・経営層でAIを業務利用している2000人**とし、**20～60代の年齢層を均等**に含め、Webアンケート形式で行った。以下に得られた知見を要約する。

- 業務AI利用では**上記①②③の状況が再度確認された**。②について詳細な質問を行った結果、2025年以降利用を開始した回答者が多く(回答者の30%)、**急速な増加傾向**が確認された。
- 20代回答者は、制御・監視等で用いられる**判定(分類)AI**を常用する点で**最大の年代別割合**を占め、**デザイン・ソフトウェア開発での利用**もこの年代に集中した。一方で、**誤用・セキュリティ等のリスク説明の重要性認識は他年代よりも低かった**。意識の低さの要因は今後の検討課題となる。
- 説明への意識が高いと想定される業種については、「**介護・医療**」**回答者の処理透明性・リスク説明に対する認識が他業種より高い**ことが確認された。
- 説明への意識では、前回調査に引き続き以下を確認した。④**処理透明性の説明とリスク説明が同程度に求められる**、⑤**回答者の50%の職場で関係者への説明の実践が行われている**、⑥「AI利用時に自分で要求・参照する」、プレゼン・動画等の異なる媒体、等の説明形態が求められる。新たに、AI利用に関する依存度の質問を含めた。

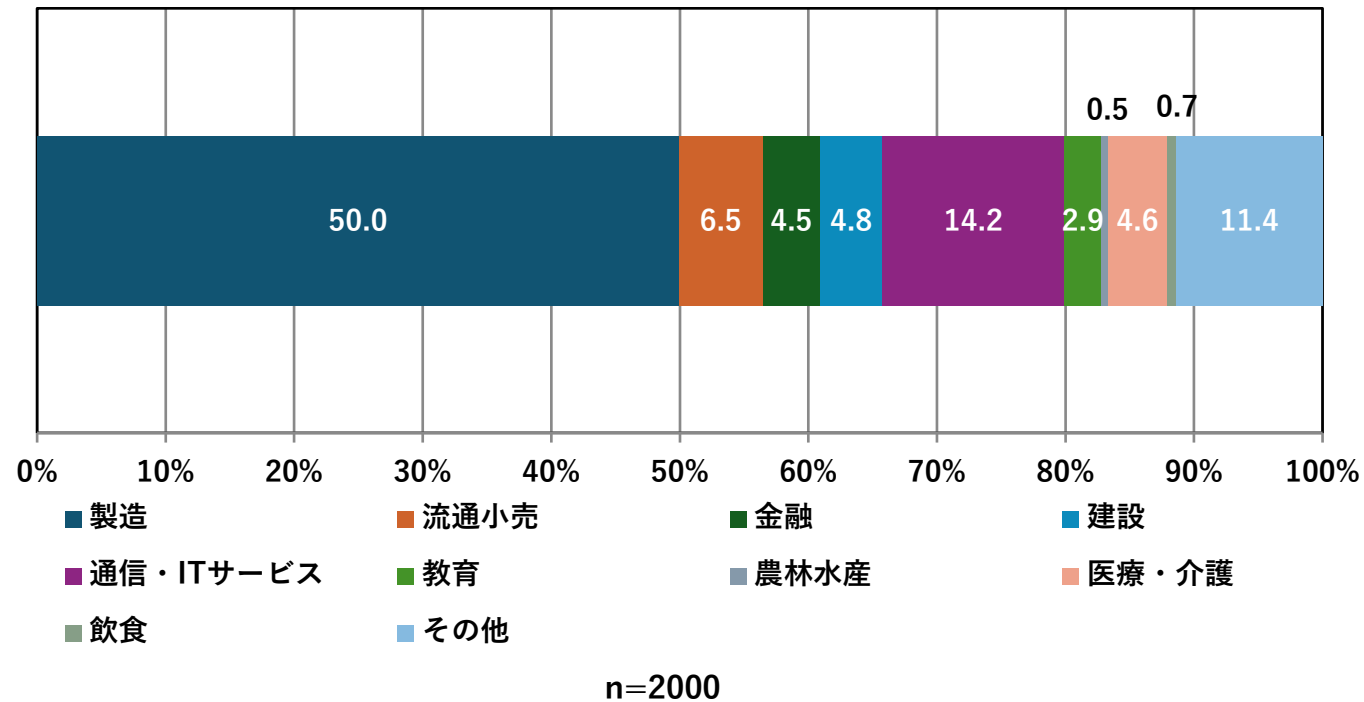
2. アンケート概要

- AIシステムの動作・利用に関する説明のあり方についての意識調査
- 対象 企業の従業員・経営者・自営業者で、AIを業務で利用する者
企業規模（大企業・中小企業）と業種（製造業・非製造業）の4象限で各500人 総計2000人
500人の年齢構成は20代～60代以上まで10年で5分割し各100人
- 形式 Webアンケート
- 実施時期 2026年3月13日～24日
- 質問概要
 - AI利用の役割と経験
 - AI関連の学習経験
 - 利用の効果/課題認識
 - AIに関する知識/リテラシーレベル
 - AIに関する情報獲得の重要性と課題
 - AIの信頼性に関する説明実施の状況と課題
 - AIの望ましい説明情報提供のあり方
 - AI利用に関する依存度

3. アンケート結果

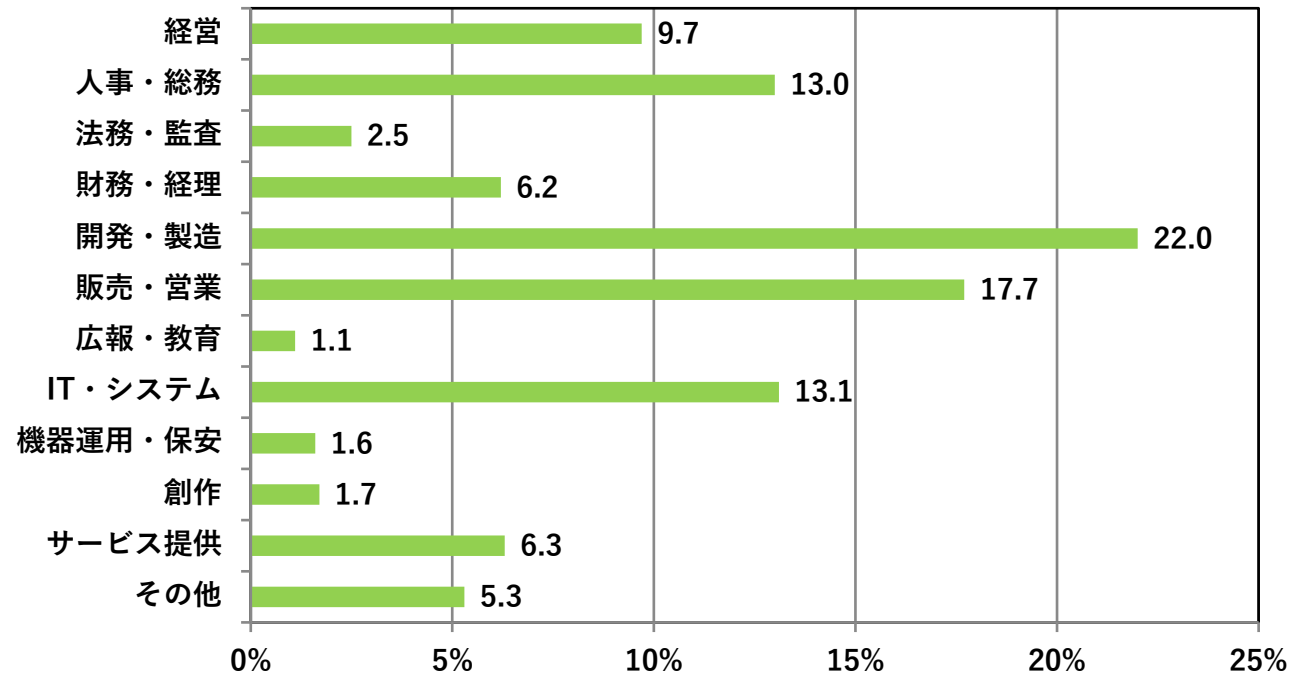
回答者属性	5ページ	AIリテラシー説明の重要性認識	28ページ
利用するAIのタイプ	7ページ	説明情報への関心	30ページ
AI知識・リテラシーの自己評価	8ページ	説明情報の提供元	32ページ
AIの利用・学習経験	9ページ	説明の提供形態	34ページ
AI利用分野と利用頻度	11ページ	説明の参照環境	35ページ
AI業務利用の課題認識	13ページ	説明用生成AIのニーズ	37ページ
AI利用の課題認識	14ページ	説明用生成AIに対する意識	38ページ
AI利用の懸念・不安	17ページ	説明の頻度・タイミングに対する意識	40ページ
AI利用のために参照したい情報	19ページ		
参照情報の重要性認識	21ページ		
説明の実践状況	25ページ		
組織における説明の課題	27ページ		

回答者属性：業種



	度数	%
製造	1000	50.0
流通小売	130	6.5
金融	90	4.5
建設	96	4.8
通信・ITサービス	284	14.2
教育	58	2.9
農林水産	10	0.5
医療・介護	91	4.6
飲食	13	0.7
その他	228	11.4
集計母数	2000	100.0

回答者属性：職種

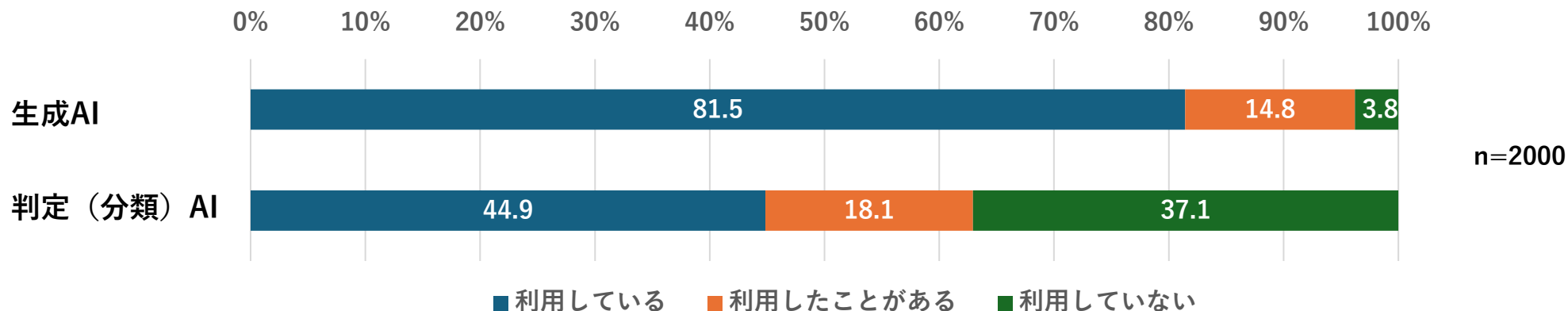


n=2000

	度数	%
経営	194	9.7
人事・総務	260	13.0
法務・監査	49	2.5
財務・経理	123	6.2
開発・製造	439	22.0
販売・営業	354	17.7
広報・教育	22	1.1
IT・システム	261	13.1
機器運用・保安	32	1.6
創作	34	1.7
サービス提供	126	6.3
その他	106	5.3
集計母数	2000	100.0

予備質問：利用するAIのタイプ

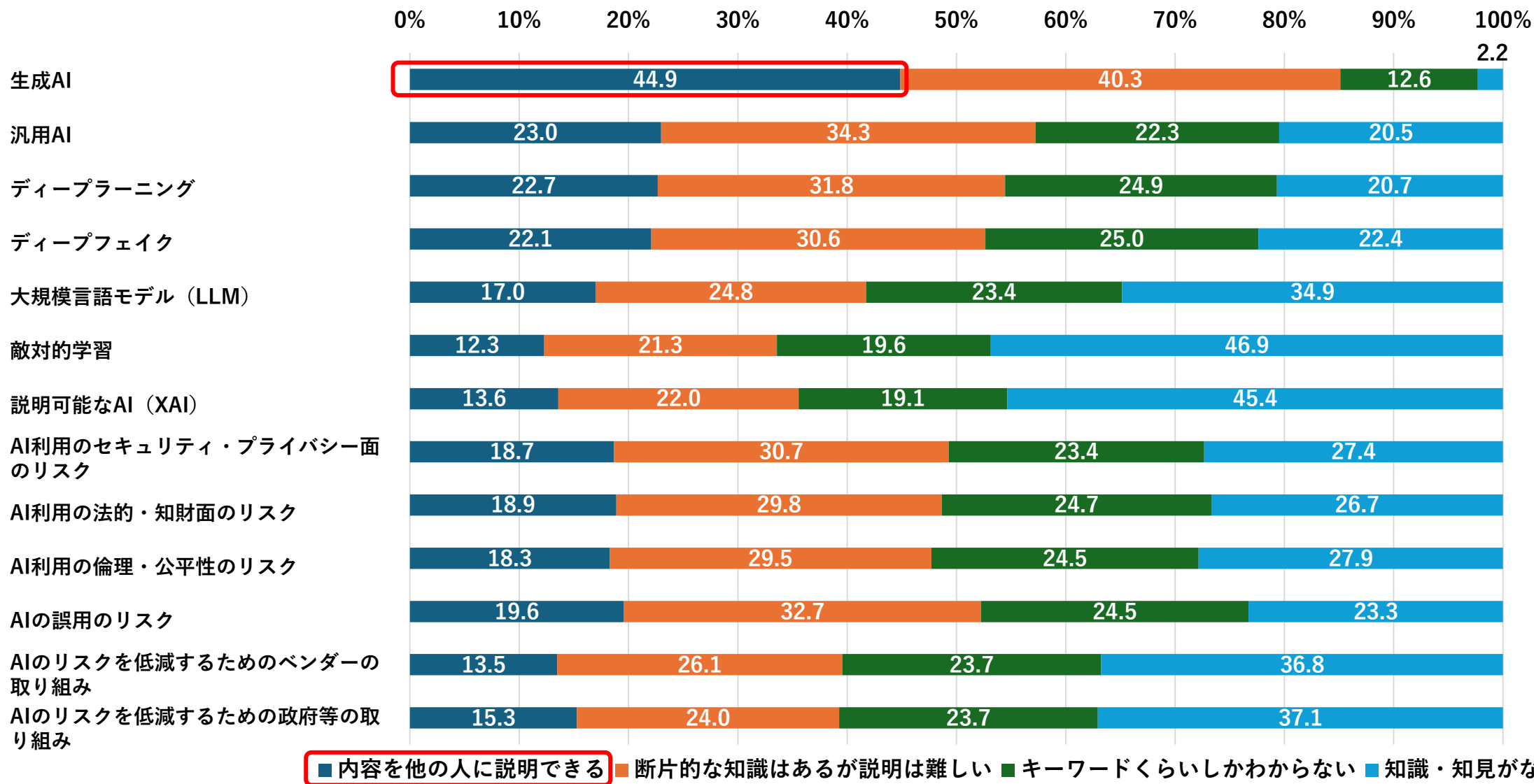
生成AIは企業規模・業種を問わず**95%**が利用と回答し、企業規模・業種全体を網羅している。判定（分類）AIは**63%**が利用し、こちらも規模・業種を問わない。



タイプの特性	判定（分類）AI	生成AI
実用時期	2022年以前から実用	2022年以降実用
採用技術	機械学習、データマイニング等	機械学習、大規模言語モデル等
入出力	IN 信号・数値等 OUT 数値・分類/判定結果等	IN 自然言語・音声・画像等 OUT 自然言語・音声・画像等
用途	自動制御、監視、検知、認識、判定、分析、予測等	情報収集・要約、文書作成・チェック、翻訳、コンテンツ生成、ソフトウェア開発等
説明に対する要請として想定されること	判定・分類処理の経緯説明（透明性）	利用におけるリスクや対応の説明（説明責任）

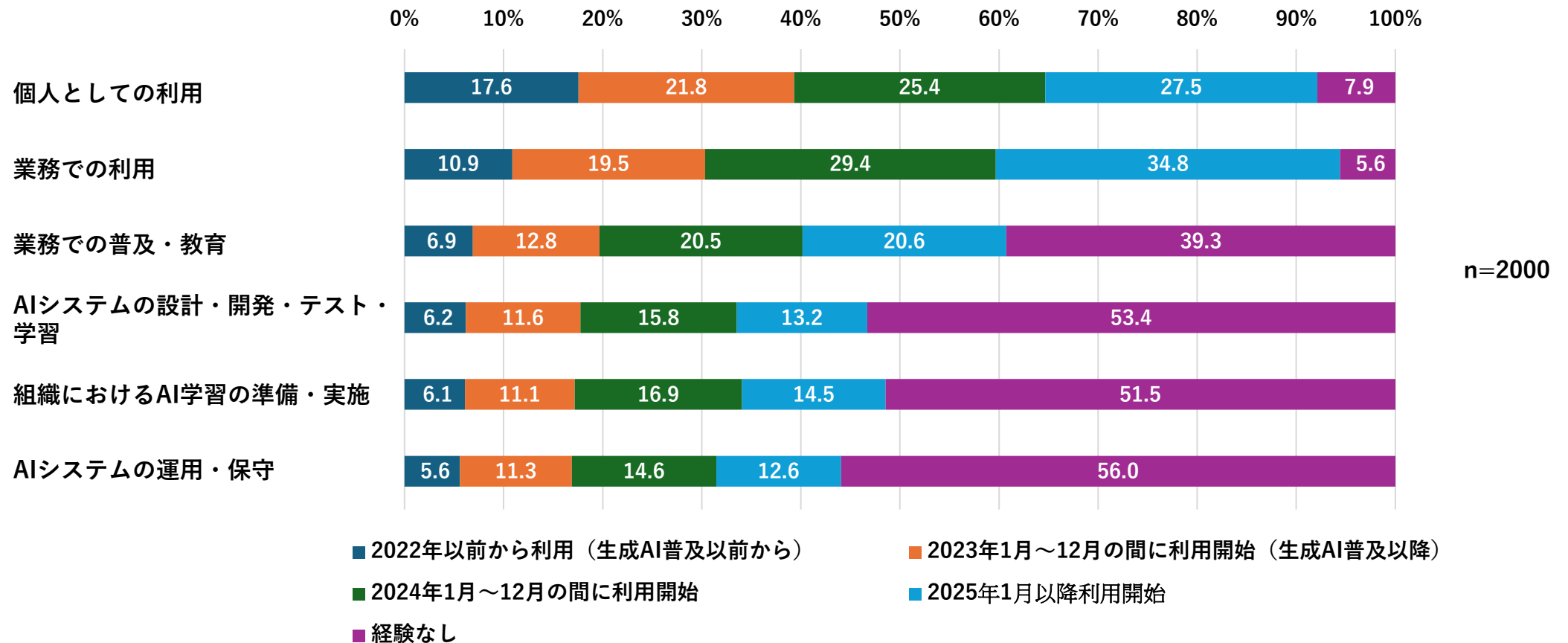
予備質問：AI知識・リテラシーの自己評価

2025年7月調査より「人に説明できる」が各項目で3~10%増加したが、「断片的な知識」までを含めた割合は変化がない。利用者の経験値があがった可能性がある。



本質問2： AIの利用・学習経験

AI利用に関するあなたの経験について、各項目であてはまるものを1つだけ選んでください



本質問2：結果と分析

結果

全体傾向は2025年7月調査と同じだが、特に「業務での利用」において、2025年1月以降利用開始が**34.8%**と突出した。

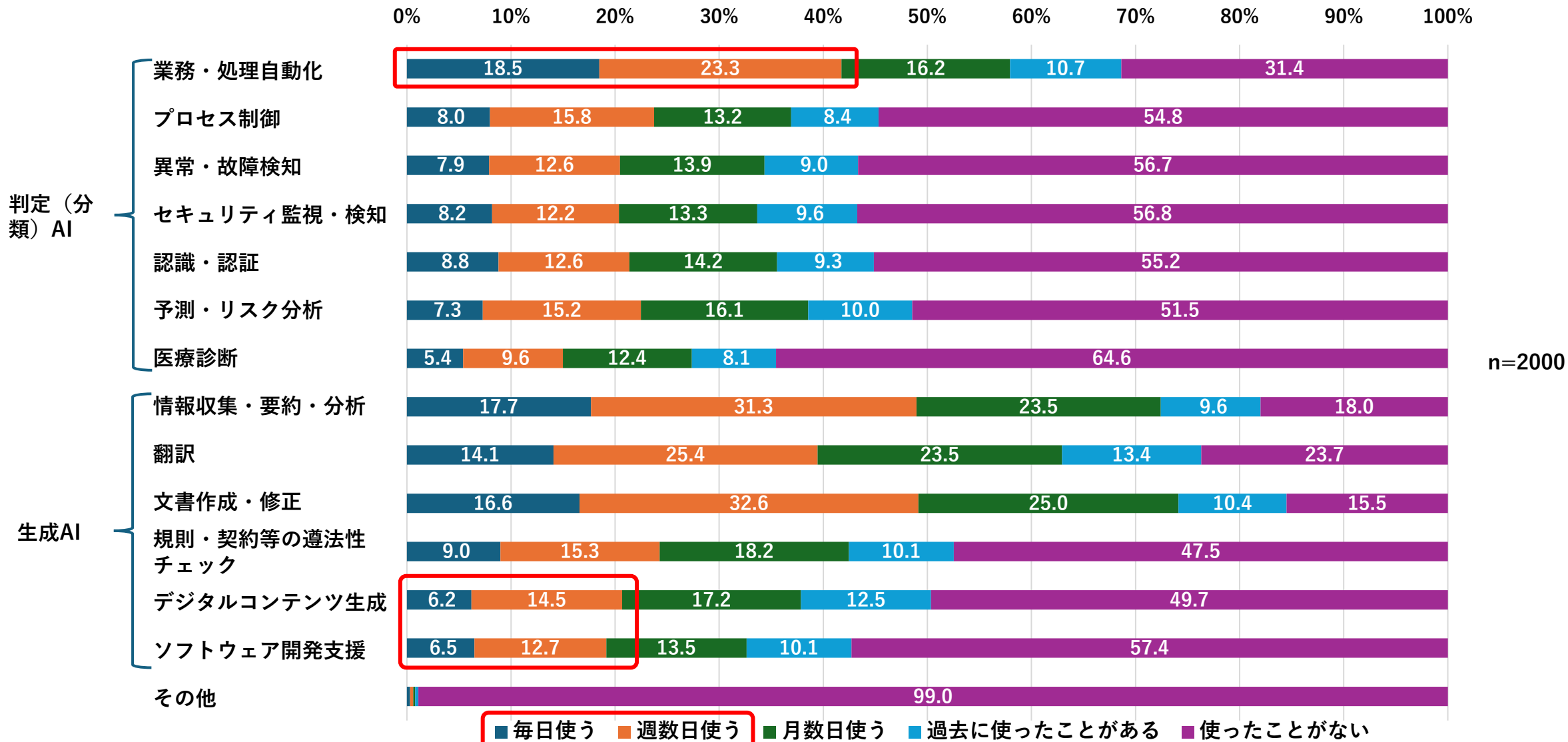
分析

2025年以降生成AIの業務利用が加速し、企業の新規**導入が今後も進むと思われる**。前回確認された「**経験3年未満の利用者が多い**」状況は**当面続く**と示唆される。

なお業務利用で「経験なし」との回答があるが、AIの利用者ではないがAI開発・運用・普及等の経験がある、との回答者がこれに相当する。

本質問4： AI利用分野と利用頻度

AIの利用分野と利用頻度について、各項目であてはまるものを1つだけ選んでください



本質問4：結果と分析

結果

判定（分類）AI、生成AIの各項目で「毎日・週数日」を合わせた高頻度利用は2025年7月調査から3～10%強増加した。

分析

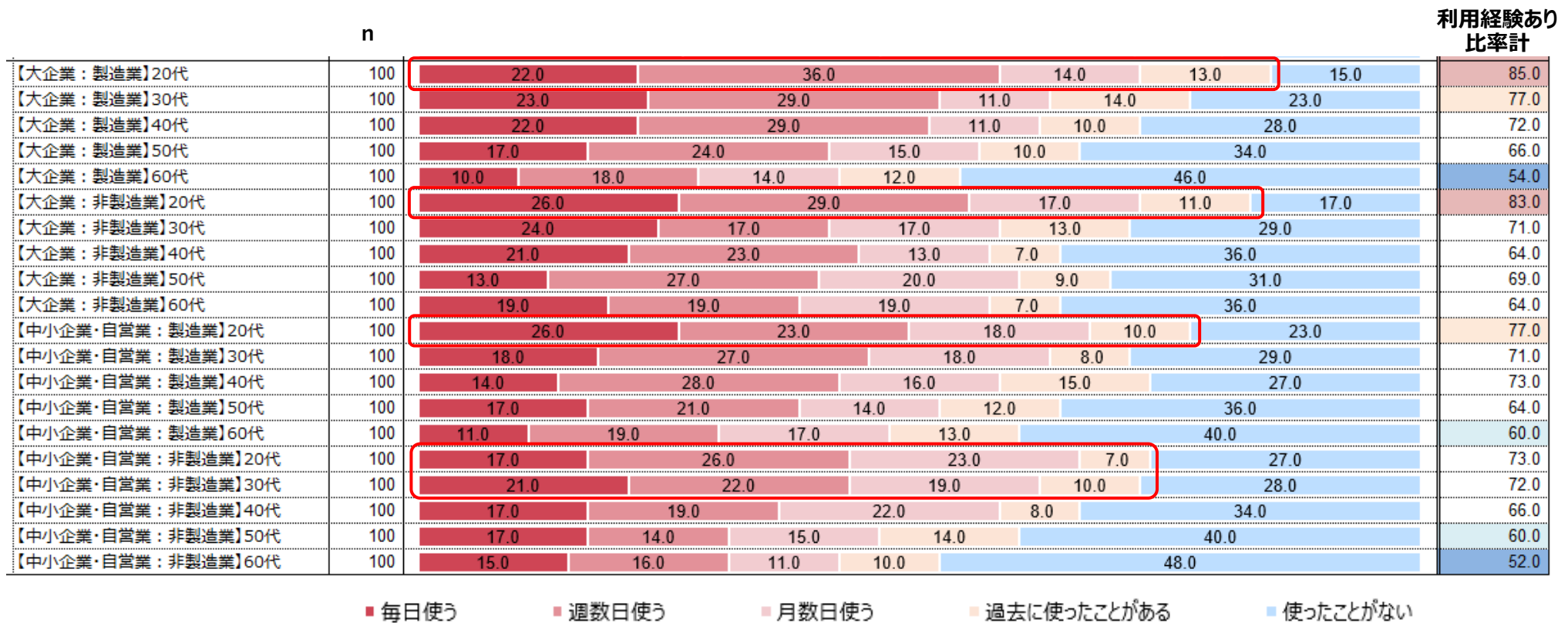
特異的に増えたのが判定（分類）AIの「業務・処理自動化」の高頻度利用10%増で、今回20代の回答者を確保したことの影響が想定される（次ページ参照）。

生成AIの「デジタルコンテンツ生成」「ソフトウェア開発支援」も20代回答者の確保で増加が想定されたが、高頻度利用は2～3%の漸増にとどまった。

本質問4： AI利用状況の年代特性（クロス集計）

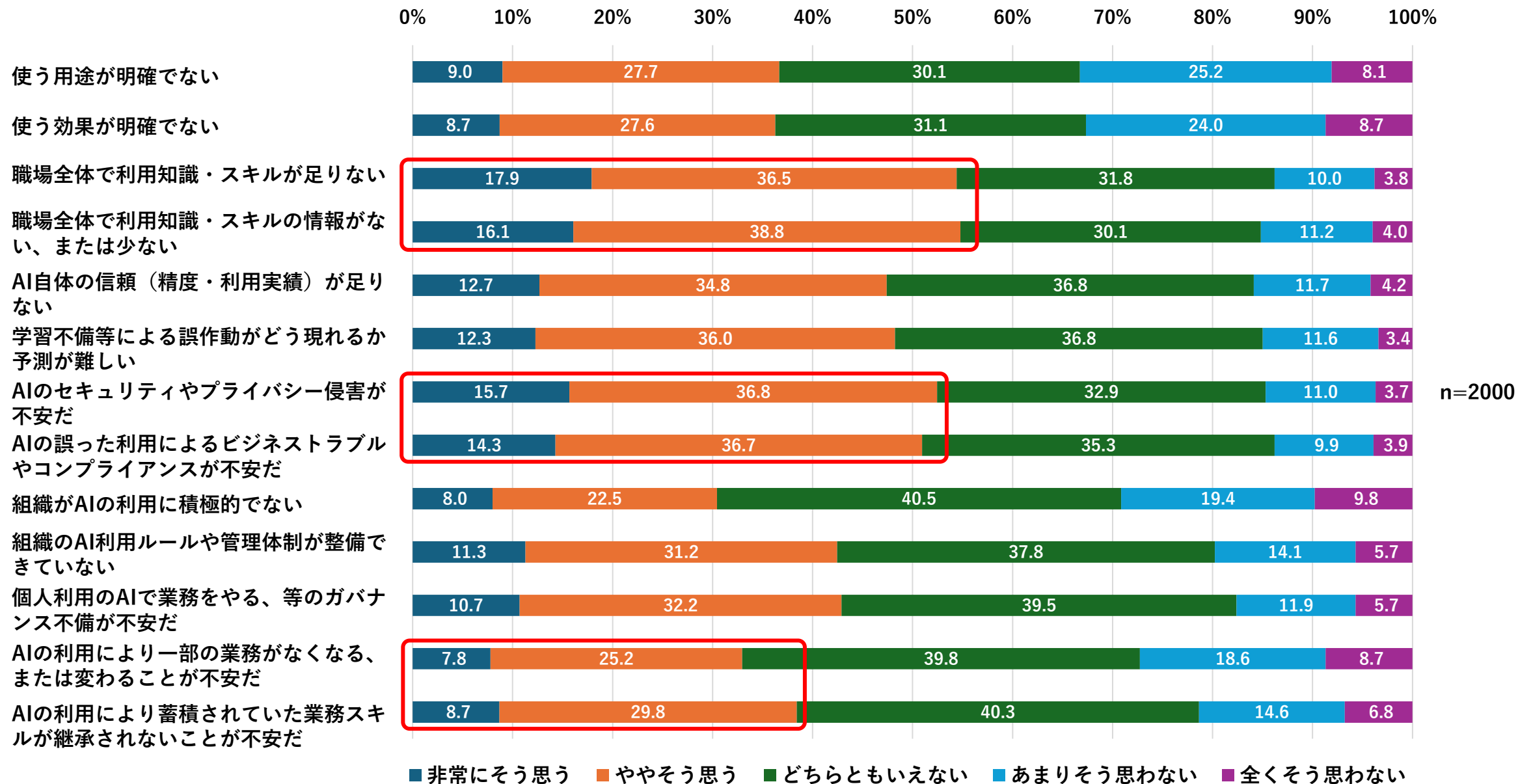
判定（分類）AIの利用は製造・非製造、企業規模をとわず20～40代に集中している。
 分類AIは全年代で利用されている。

例：業務・処理自動化の年代別利用頻度



本質問5： AI業務利用の課題認識

職場におけるAI利用の課題について、各項目ではあてはまるものを1つだけ選んでください



本質問5：結果と分析

結果

2025年7月調査に引き続き、「職場全体で知識・スキルが足りない」「職場全体で知識・スキルの情報がない」が最大の課題であると確認された。「やや大きい」までを含めた割合は前者が7%減（54.4%）、一方後者は10%増（54.9%）で、利用スキルは上がったが情報がない、という状況を示唆するものとなった。

「セキュリティ・プライバシーの不安」「誤用・コンプライアンスの不安」は知識・スキルに次ぐ課題とされたが、「やや大きい」までを含めた割合は前回とほぼ同様だった。

分析

今回新たに「AIによる業務の変化・消滅」「AIによる人的スキルの消失」を項目にあげた。全体では「ややそう思う」までを含めてそれぞれ33.0%、38.5%が課題であると回答し、「利用用途」「利用効果」の回答とほぼ同等となった。

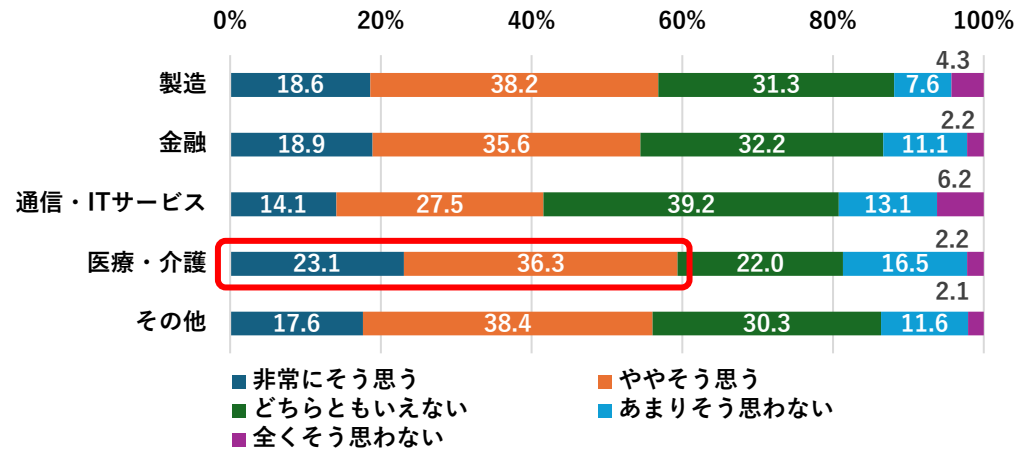
課題認識に関する業種の影響を調べたところ、「医療・介護」の回答者は知識・スキル、セキュリティ、人的スキル消滅について他業種より強い課題認識を示した（次ページ参照）。

本質問5: 業種の影響 (クロス集計)

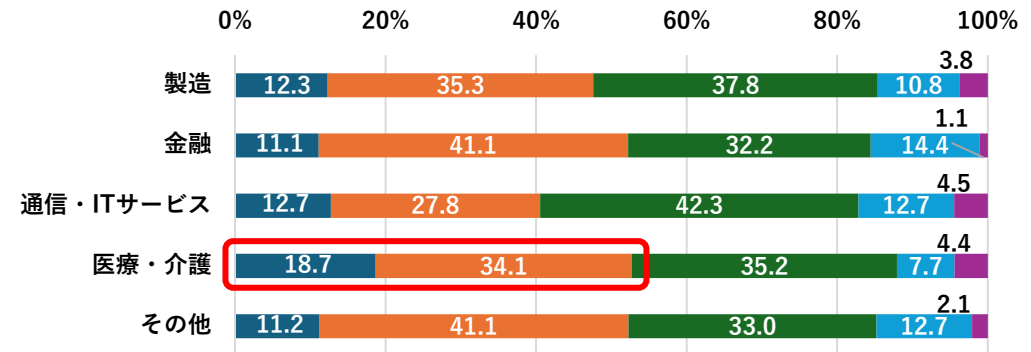
AIの透明性・リスク説明に意識が高いと想定される業種についてクロス集計

医療・介護業種の強い課題認識が確認された

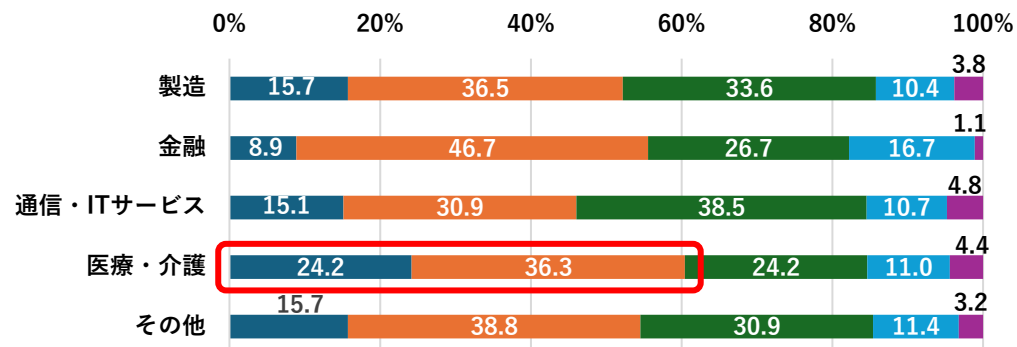
AI利用スキルが不足



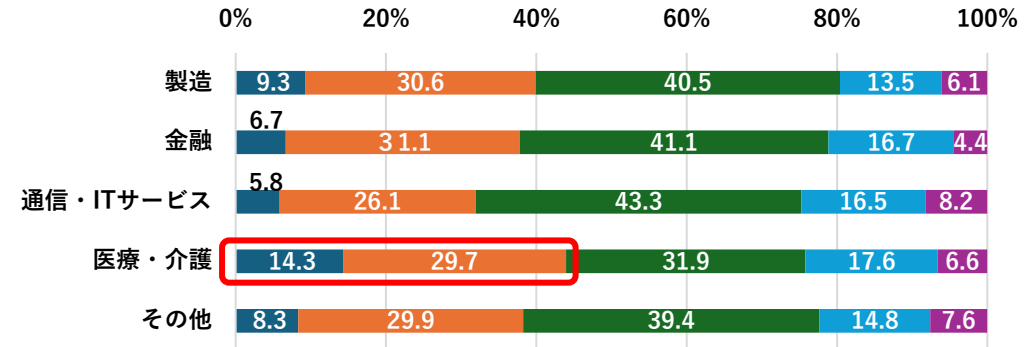
AIの誤作動が不安



セキュリティが不安

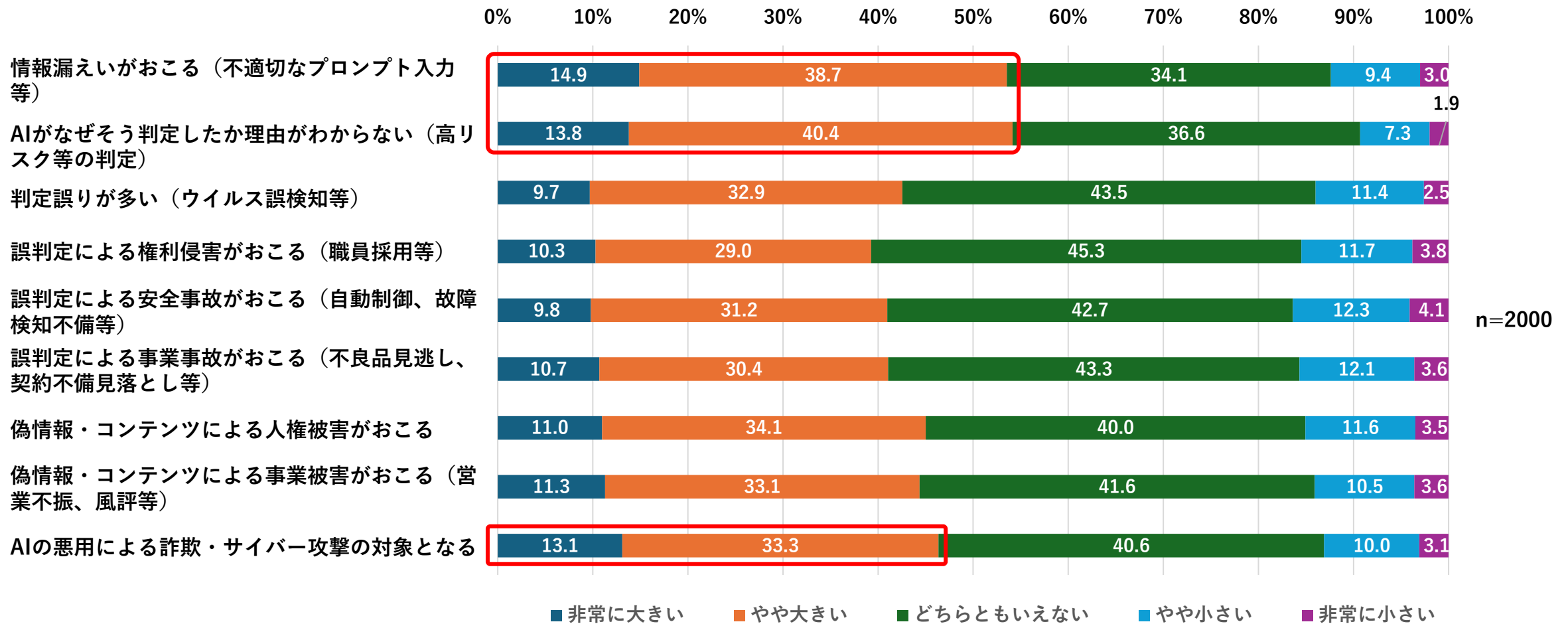


人的スキルの消失が不安



本質問6： AI利用の懸念・不安

AIの信頼性・安全性に関する懸念や不安について、各項目であてはまるものを1つだけ選んでください



本質問6：結果と分析

結果

「やや大きい」までを含めた場合、2025年7月調査と比較して懸念・不安は各項目で2～7%増加。情報漏えい、透明性のリスクが突出する状況はかわらない。

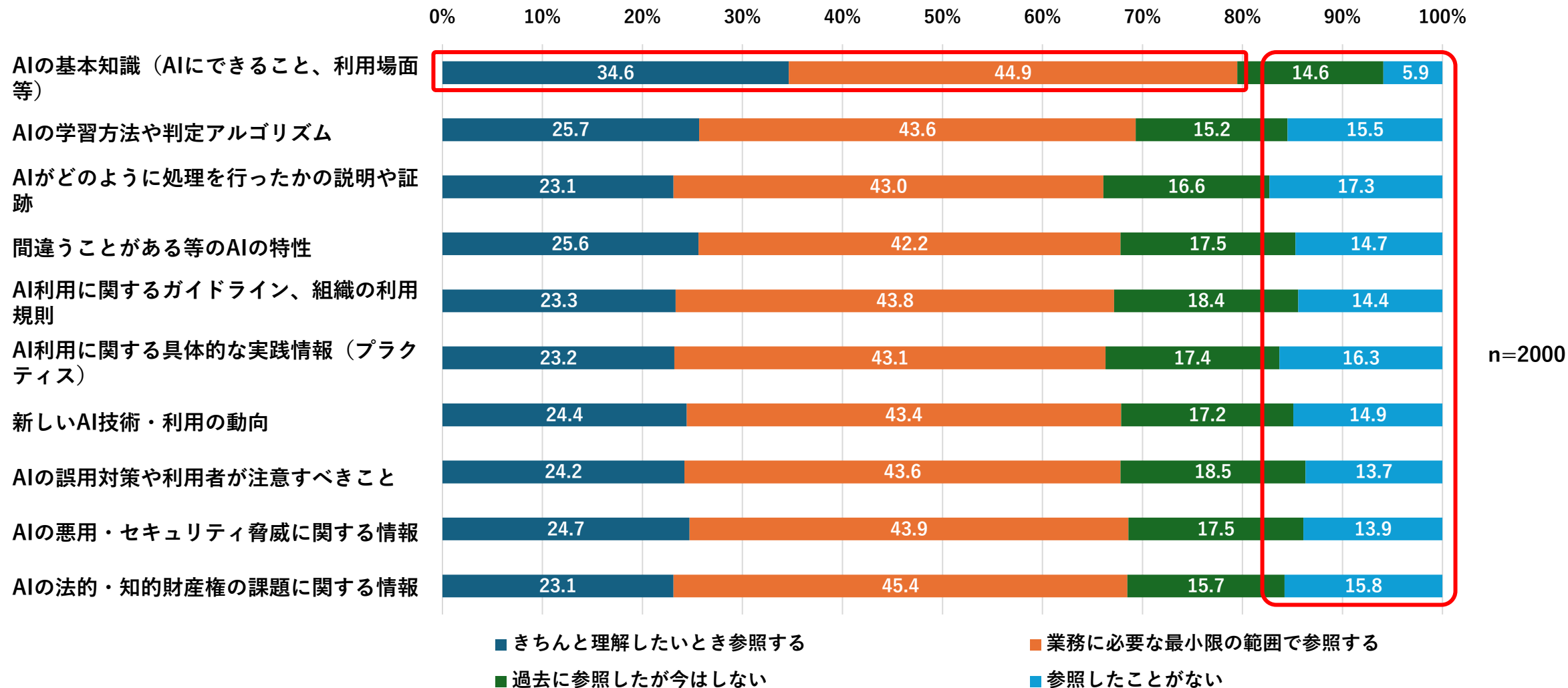
AI悪用によるサイバー攻撃の不安は7%増加。

分析

AI悪用によるサイバー攻撃への懸念は2026年5月以降さらに増加していると思われる。

本質問8：AI利用のために参照したい情報

各項目について、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください



本質問8：結果と分析

結果

「参照する」とする回答は、2025年7月調査と比較して、**各項目で15～20%と顕著に増加した。**

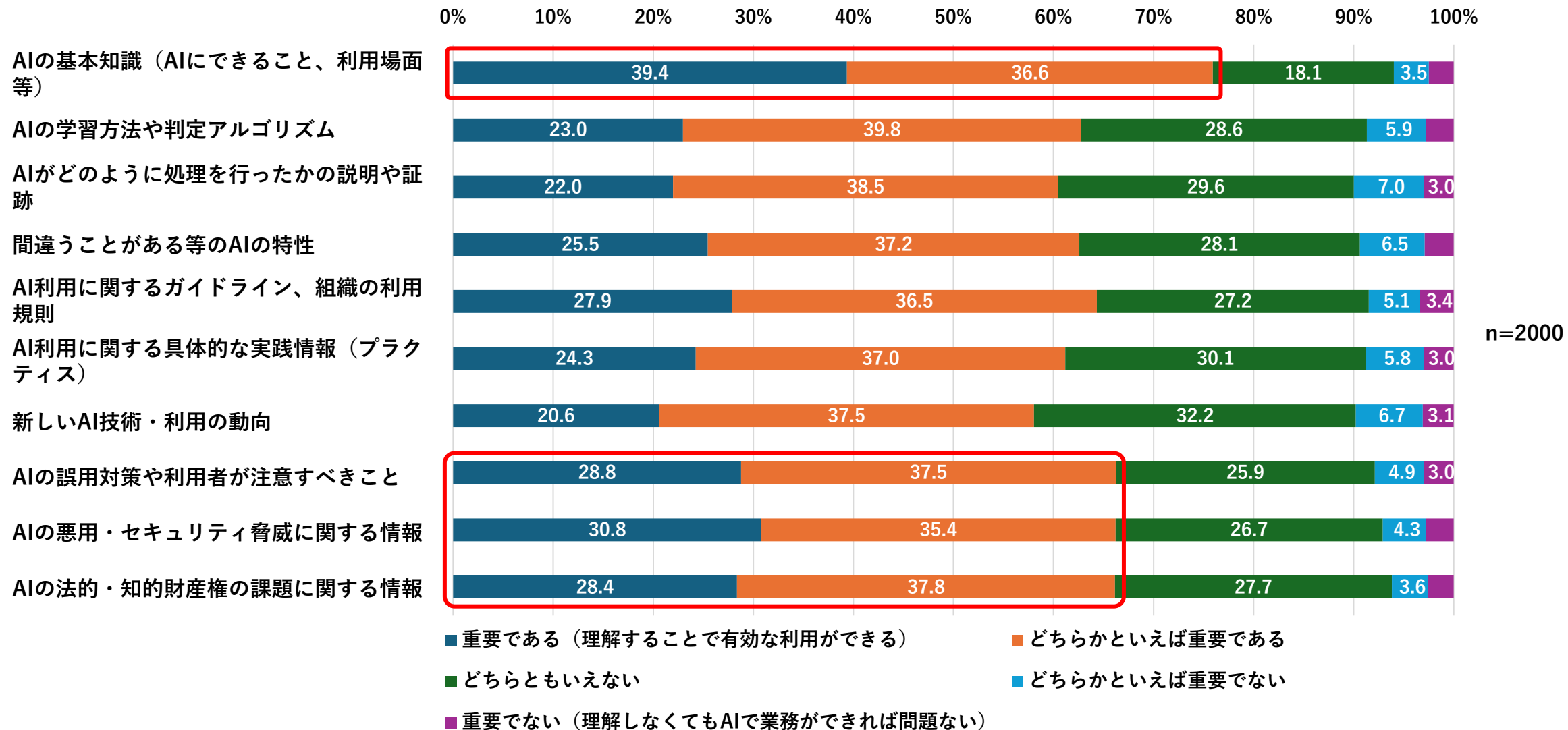
この中でも「基本知識を参照する」が突出する状況はかわらない（79.5%）

分析

今回調査では「**参照したことがない**」が前回に比べ**大きく減少（22～27%）**、「参照する」の増加要因となっている。実務で情報参照の機会が徐々に増えていると思われる。

本質問9：参照情報の重要性認識

各項目について、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください



本質問9：結果と分析

結果

2025年7月調査と比較して各項目の増加は少なく（数％）、**ほぼ前回並み**となった。「基本知識」が突出し（76.0％）、誤用・セキュリティ・コンプライアンスが続く（65～67％）状況はかわらない。

分析

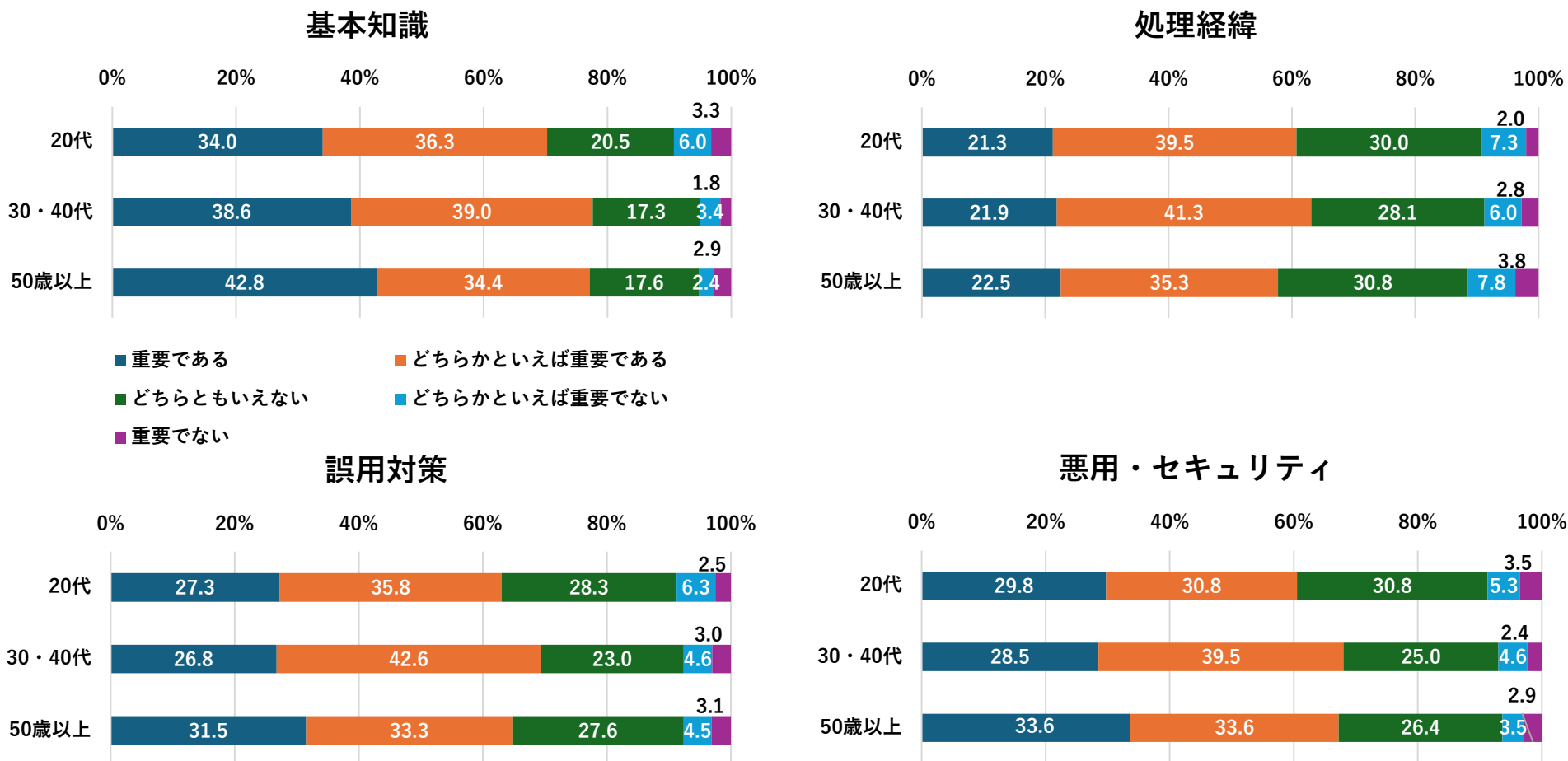
前問の情報参照の増加はAI利用者の意識の変化によるのではなく、**実務で必要に迫られての増加**と推定される。

年齢層別の重要性認識では、30～40年代が最も意識が高い傾向がみられる（24ページ参照）

知識・リテラシーレベル別の重要性認識では、**レベルと重要性認識に正の相関**がみられる。結果として、「**AI初心者の知識・リテラシーが低い**ため**基本知識の重要性認識が高い**」という仮説は**支持されない**（25ページ参照）

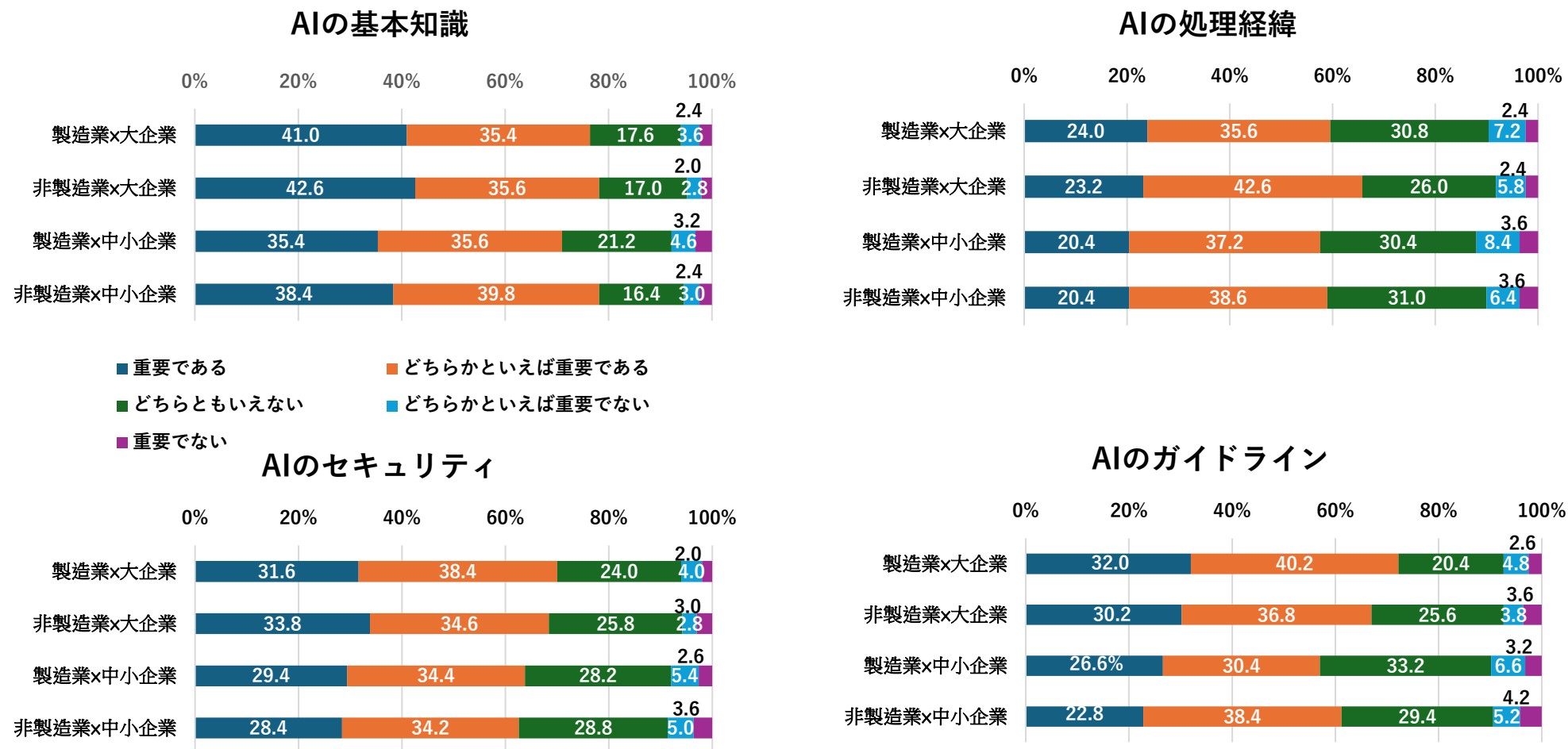
本質問9：年齢層別の重要性認識

「どちらかといえば」までを含めた重要性認識は30～40代がもっとも高いが、大きな差はない。
 20代は基本知識、誤用・セキュリティ等のリスク情報の重要性認識が低い。
 50代以降は処理経緯（透明性）の重要性認識が低い。



本質問9：4象限グループ別の重要性認識

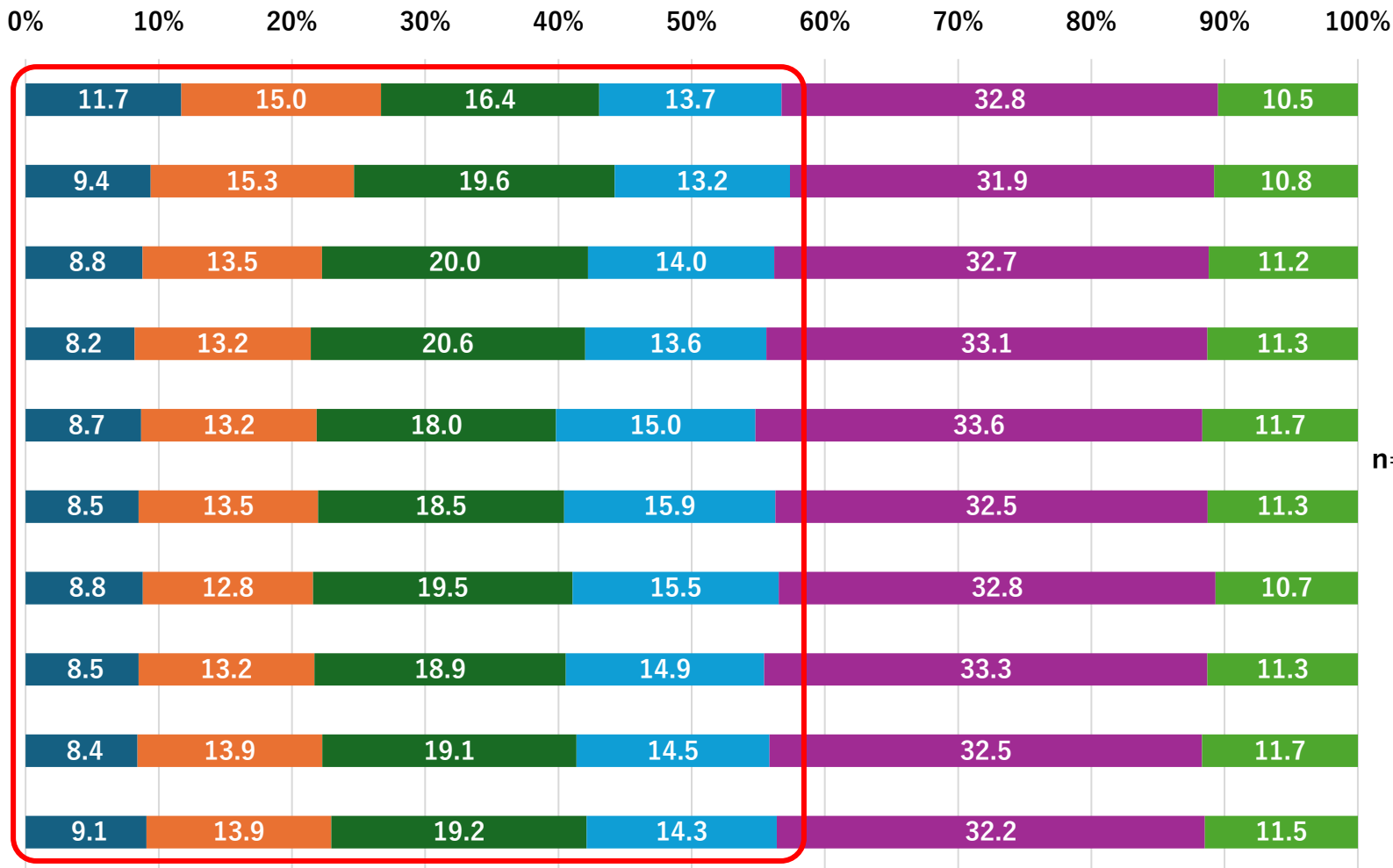
情報の参照（問8）および参照情報の重要性認識（問9）では**大企業・中小企業**で差がみられる。特に**製造業・中小企業**で低い傾向である。



本質問11：説明の実践状況

職場において、AIの説明を求めたり求められたりすることがありますか？各項目について、あてはまるものを1つだけ選んでください

- 判定（分類）AIの判定の経緯、および利用者がどう対処したかの説明（判定を採用した、修正した等）
- 判定（分類）AIの精度の根拠、またはその精度で問題ないとする根拠
- 判定（分類）AIの学習データに関する説明
- 判定（分類）AIの学習や入力処理がプライバシーに配慮しているかの説明（個人が特定されない等）
- 判定（分類）AIのセキュリティが保たれているかの説明
- 生成AIの学習データに関する説明
- 生成AIの学習が知財権・プライバシーに配慮しているかの説明
- 生成AIが不公平・非倫理的な回答の抑止に配慮しているかの説明
- 生成AIが誤用の抑止に配慮しているかの説明（誤用への注意喚起等）
- 生成AIのセキュリティが保たれているかの説明（不適切なプロンプトによる情報漏えい回避等）



n=2000

- ある。自分は説明を求める立場である
- ある。自分は説明を求められる立場である
- ある。自分はどちらの立場でもある
- ある。自分はどちらの立場でもない
- ない
- わからない（当該AIを利用していない、を含む）

本質問11：結果と分析

結果

「説明を求める/求められることがある」回答は55～58%で、**ほぼ2025年7月時点と同じ**。

判定（分類AI）の処理経緯、生成AIの信頼性の説明について**ほぼ同率**であることも前回と同様。

分析

4象限ごとの回答では、中小企業・非製造業:自営業で説明の実践が少ない傾向（ある、とする全回答について各説明項目で全体から**2～5%低い**）。

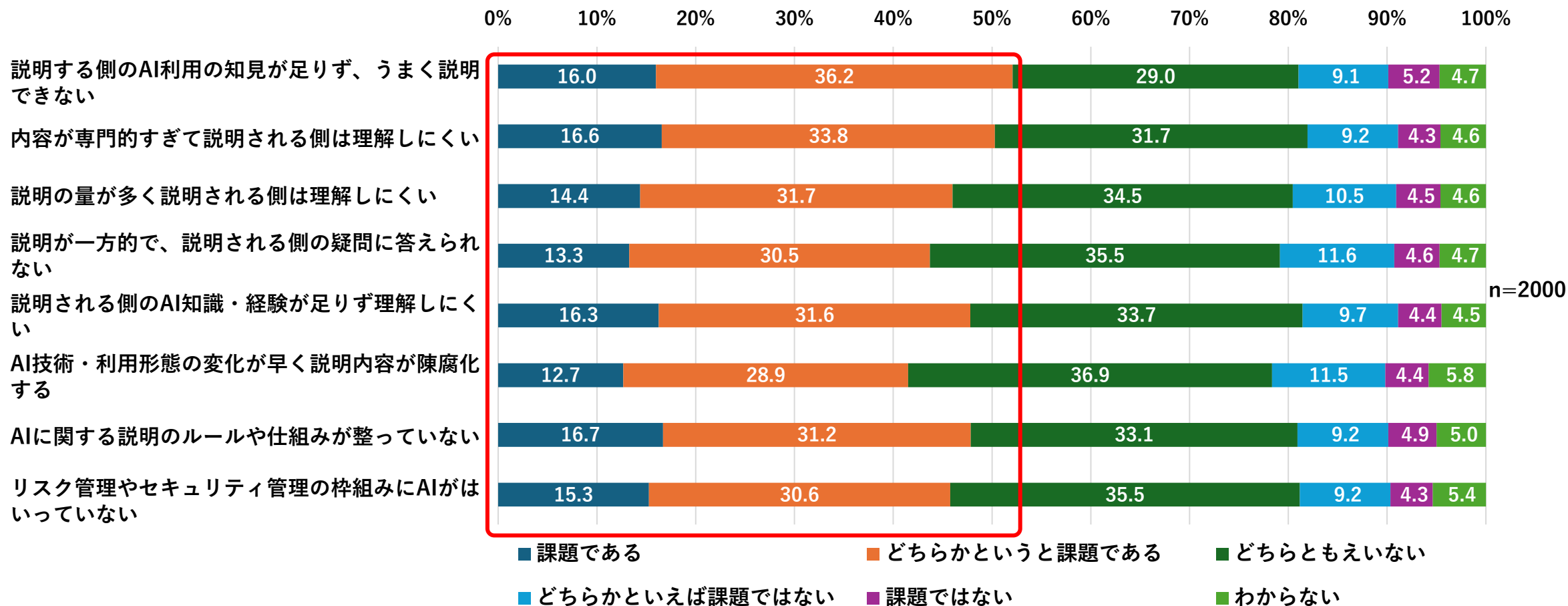
4 象限グループ別の回答事例：生成AIのセキュリティが保たれているかの説明実践

グループ	9.1	13.9	19.2	14.3	32.2	11.5	56.3	n=2000
全体	9.1	13.9	19.2	14.3	32.2	11.5	56.3	n=2000
大企業：製造業	10.0	14.6	18.0	16.2	32.2	9.0	58.8	n=500
大企業：非製造業	8.0	15.4	20.6	13.4	29.4	13.2	57.4	
中小企業・自営業：製造業	9.8	12.6	18.6	15.8	32.6	10.6	56.8	
中小企業・自営業：非製造業	8.4	12.8	19.4	11.6	34.6	13.2	52.2	

- ある。自分は説明を求める立場である
- ある。自分は説明を求められる立場である
- ある。自分はどちらの立場でもある
- ある。自分はどちらの立場でもない
- ない
- わからない（当該AIを利用していない、を含む）

本質問13：組織における説明の課題

各項目について、あてはまるものを1つだけ選んでください



本質問14：AIリテラシー説明の重要性認識

職場において、AI利用者は以下の説明をうけておくべきだと思いますか？もっともあてはまるものを1つだけ選んでください

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

判定（分類）AIがなぜそのように判定したか、人間にわからない（経験的な知見が使えない）場合があること

判定（分類）AIで学習が網羅的にできず、判定精度が落ちること

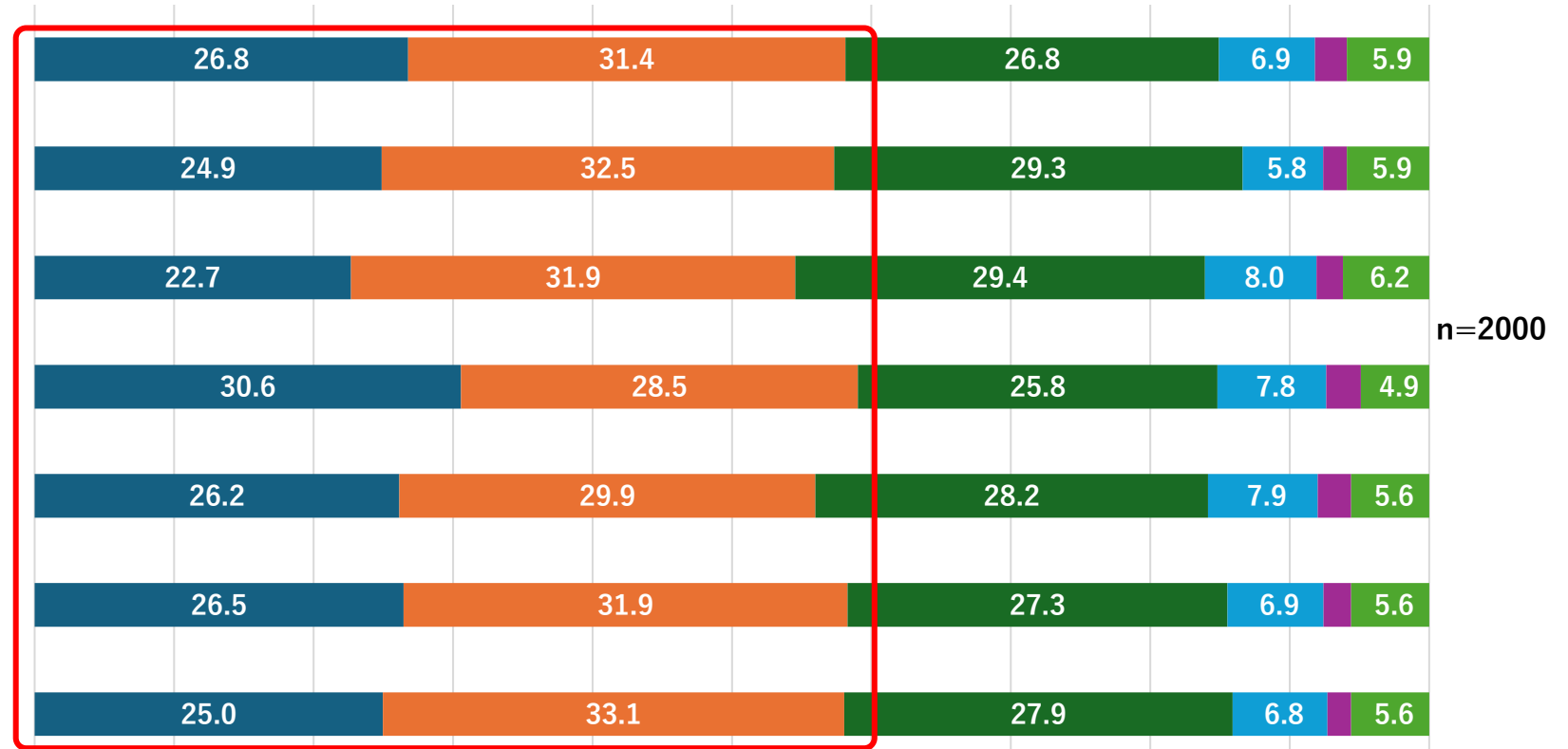
判定（分類）AIで入力データに混入するノイズによっては判定精度が落ちること

生成AIで誤った回答があること

生成AIでプロンプト入力によって回答が変わりうること（例示をすると回答精度があがる等）

生成AIで同じ質問でも繰り返すと回答が変わりうること

AIの職場に合わせた学習が利用中に進み、判定や回答の精度が向上することもあること



- 受けておくべきだ
- どちらかといえば受けておくべきだ
- どちらともいえない（利用ケースによる）
- どちらかといえば受けておくべきではない
- 受けておくべきではない
- わからない（当該AIを利用していない、を含む）

本質問13と14：結果と分析

結果

問13では、組織に説明の課題がある、とする回答は32%～52%で、主な課題は知識・スキル不足、内容の専門性、説明する仕組みの不在等であった。

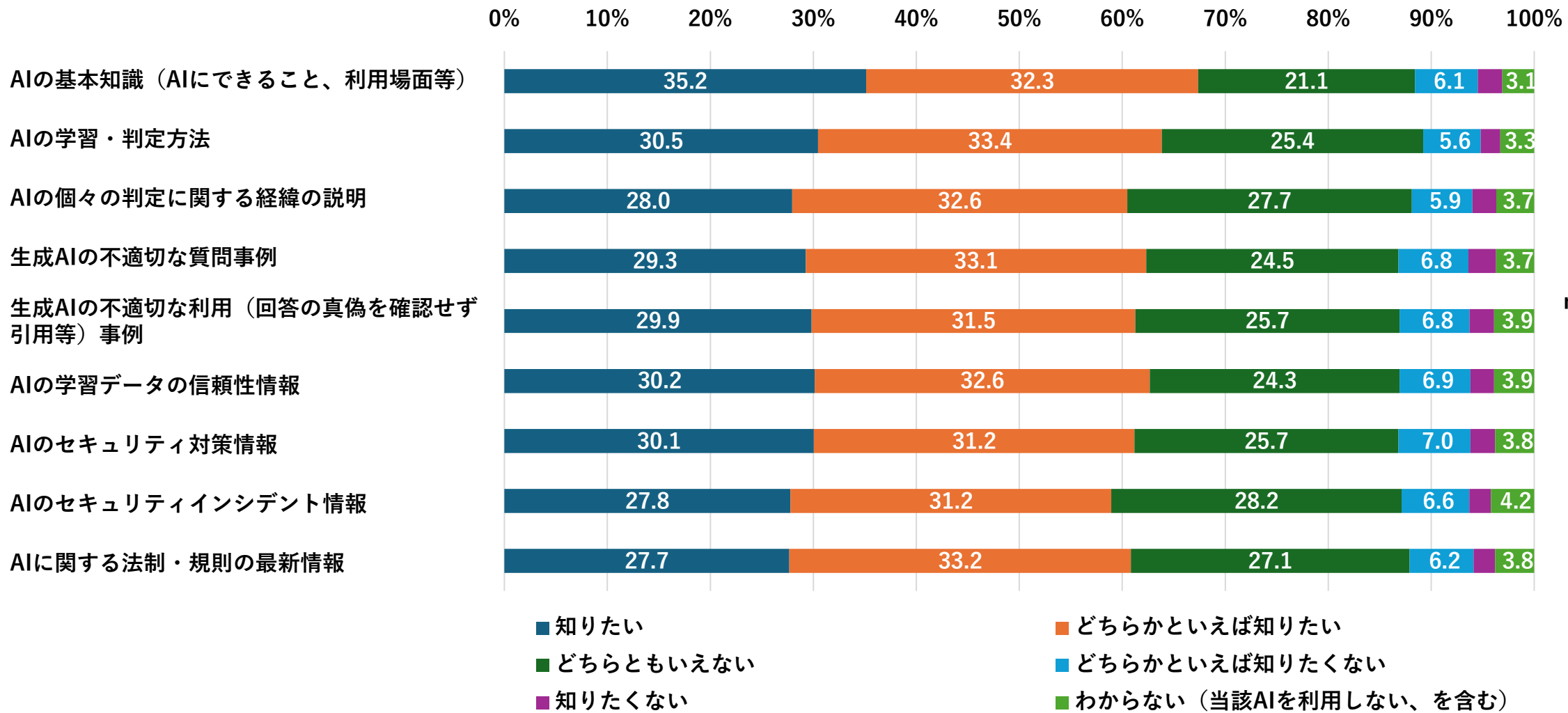
問14では、リテラシーの説明を受けておくべきとする回答は55～59%であった。

分析

問11で実践していると回答した割合（55～58%）を勘案すると、実践している組織の多くがその課題を認識し、また実践組織のほぼ全体がリテラシー説明の必要性を認識していると思われる。

本質問15：説明情報への関心

職場において、AI利用を効果的にするために、下記情報をよく知りたいか、あてはまると思うものを1つだけ選んでください



問15：結果と分析

結果

基本情報・処理経緯・リスク情報に関する関心（知りたい程度）を質問したが、「どちらかといえば知りたい」までを含めた回答は59～68%で、2025年7月調査からの増加はなかった。

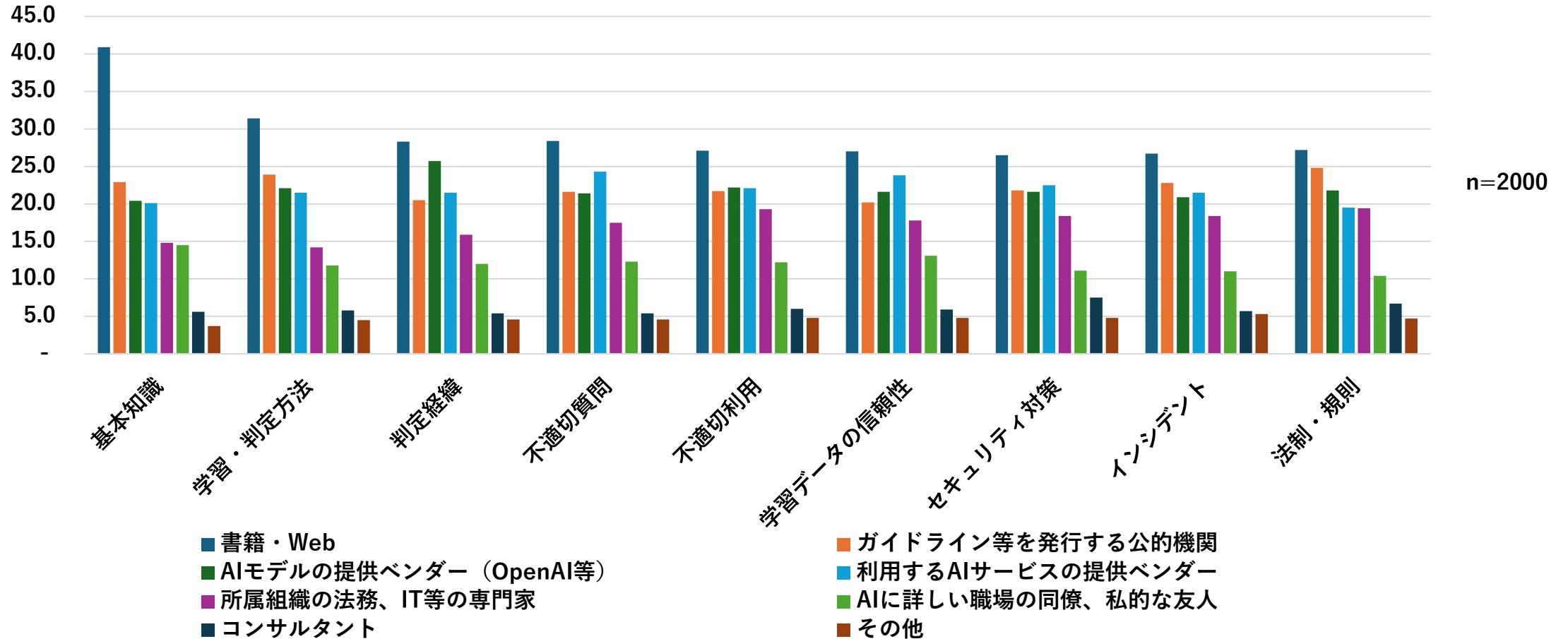
分析

「どちらかといえば」までを含めた知りたいとする回答は、問11の説明実践、問14のリテラシー説明重要性の回答と整合している。

問15ではまた、「どちらともいえない」が21～28%ある。この回答者層が説明情報を活用するケースも含めた場合、基本情報・処理経緯・リスク情報の継続的な提供が非常に重要であると思われる。

本質問16：説明情報の提供元

説明を提供するのは、どこ（どの組織）が望ましいと感じますか。あてはまると思うものを最大3つまで選んでください



本質問16：結果と分析

結果

説明の全項目で「書籍・Web」が最も支持され、特に「基本知識」では「公的機関」「AIモデルベンダー」「AIサービスベンダー」の1.8～2倍の得票を得た。

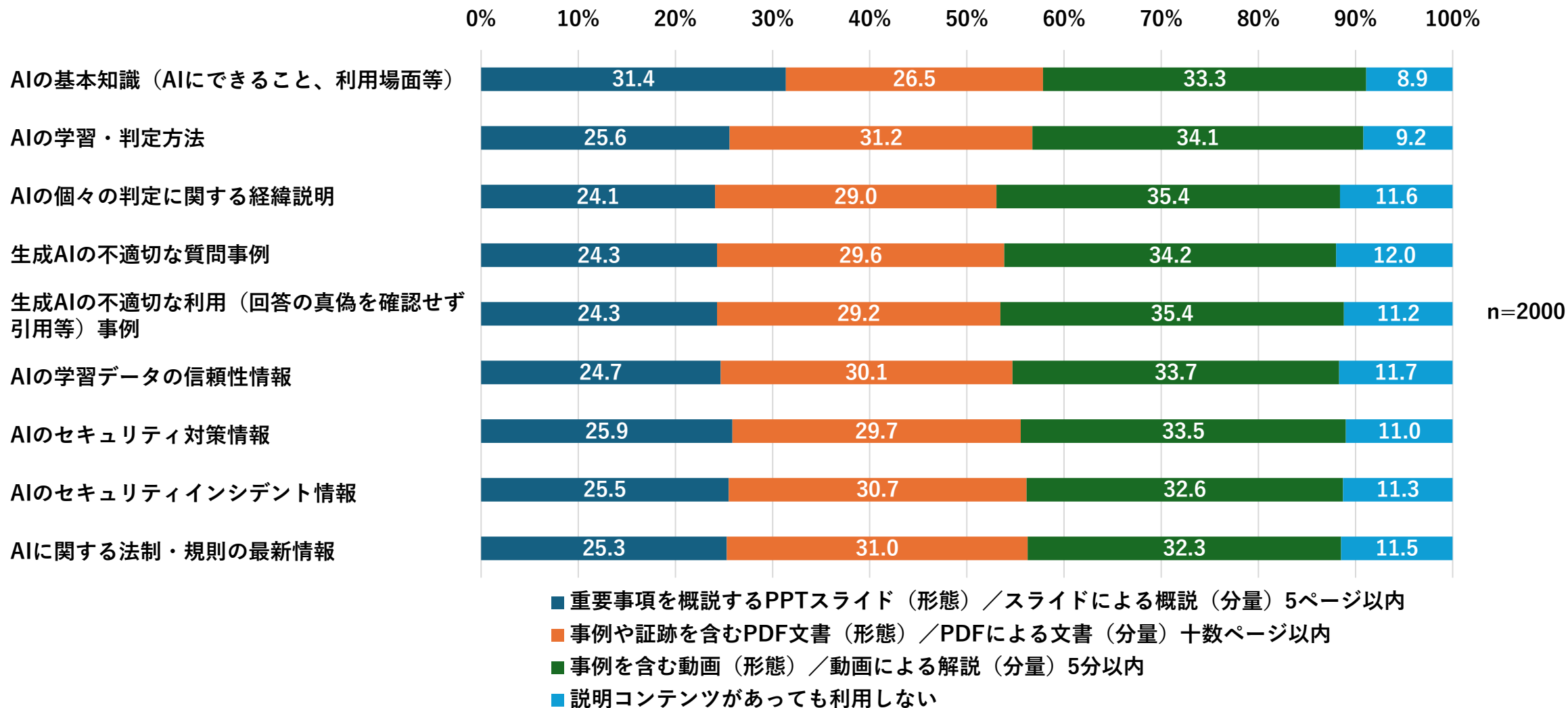
2025年7月調査ではほぼ全項目にわたり、「AIモデルベンダー」「AIサービスベンダー」が最も得票を得たが、今回調査では「公共機関」と同列の2位グループとなった。

分析

2026年にはいり、信頼できる書籍・Webが増加しているか、あるいはベンダー提供情報にあき足りない利用者が増えているか、は精査を要する。

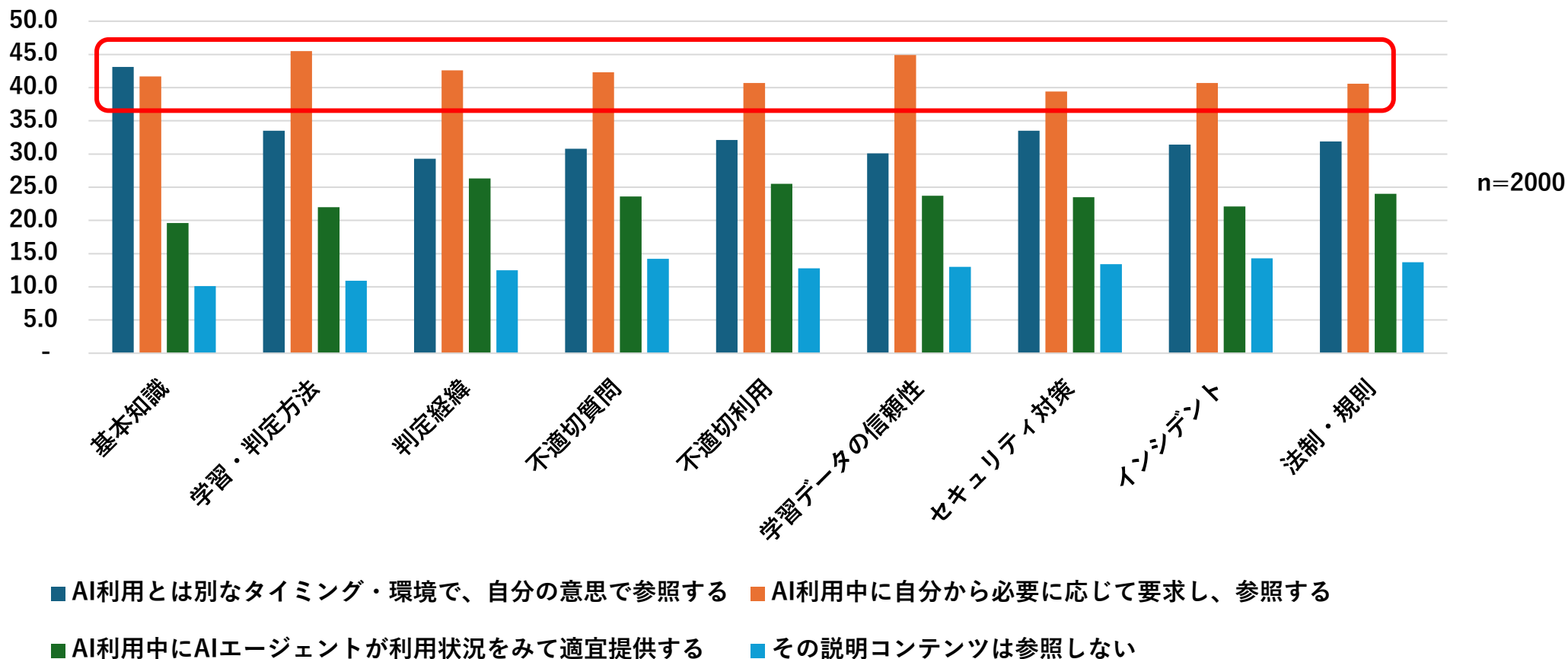
本質問17：説明の提供形態

説明を文章・動画・音声等の媒体で提供する場合、どのような分量が望ましいと感じますか？あてはまると思うものを1つだけ選んでください。



本質問18：説明の参照環境

説明コンテンツはどのような環境で参照することが望ましいと感じますか？あてはまると思うものを選んでください（複数回答可）



本質問17と18：結果と分析

結果

問17において、2025年7月調査に引き続き、PPT・PDF・動画による説明の選好がほぼ均等となった。数字はそれぞれ24～31%、27～31%、32～35%でありPPTが若干少ない。

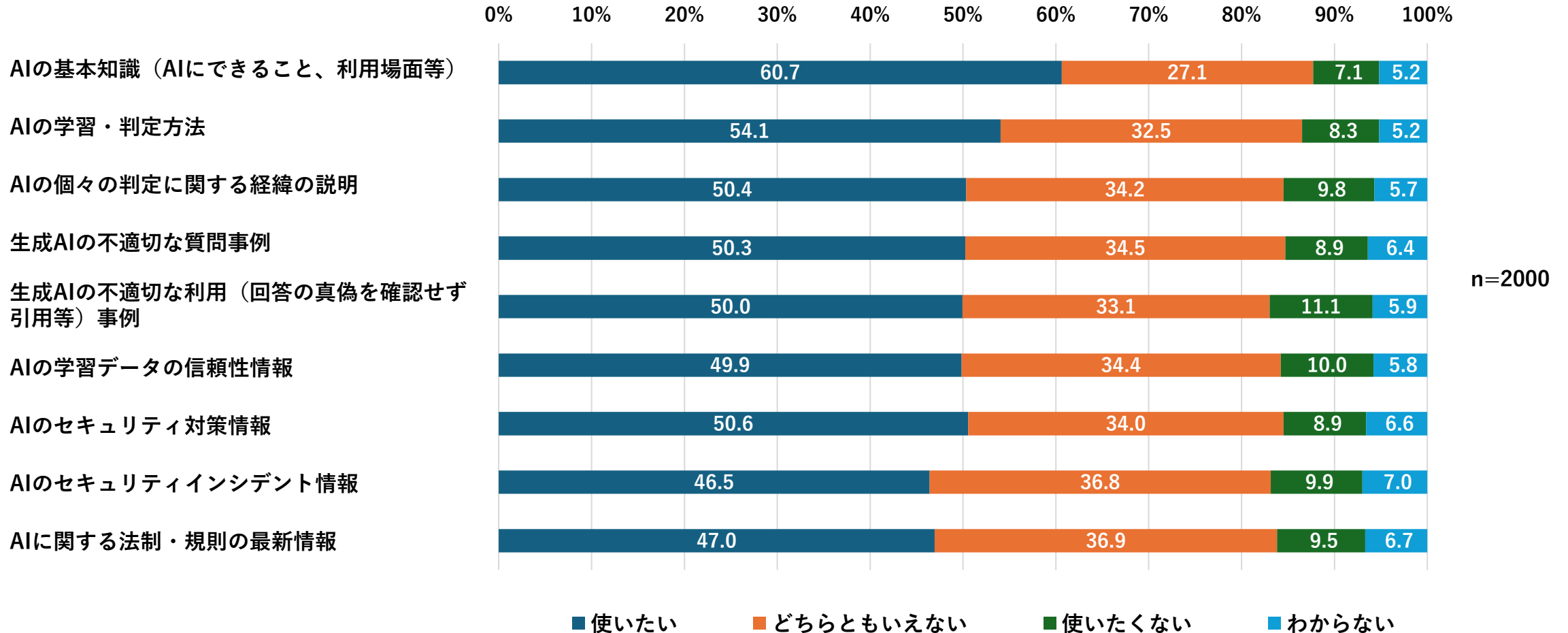
問18において、ほとんどの説明項目で「AI利用中に自分から要求して参照」が最も支持され、「AI利用とは別なタイミング・環境で自分から参照」がこれに次いだ。

分析

説明情報の参照は、従来別なタイミング・環境が前提であったと想定されるが、AI利用中にも参照し、適切な利用を行いたいとする回答者の要望が伺われる。

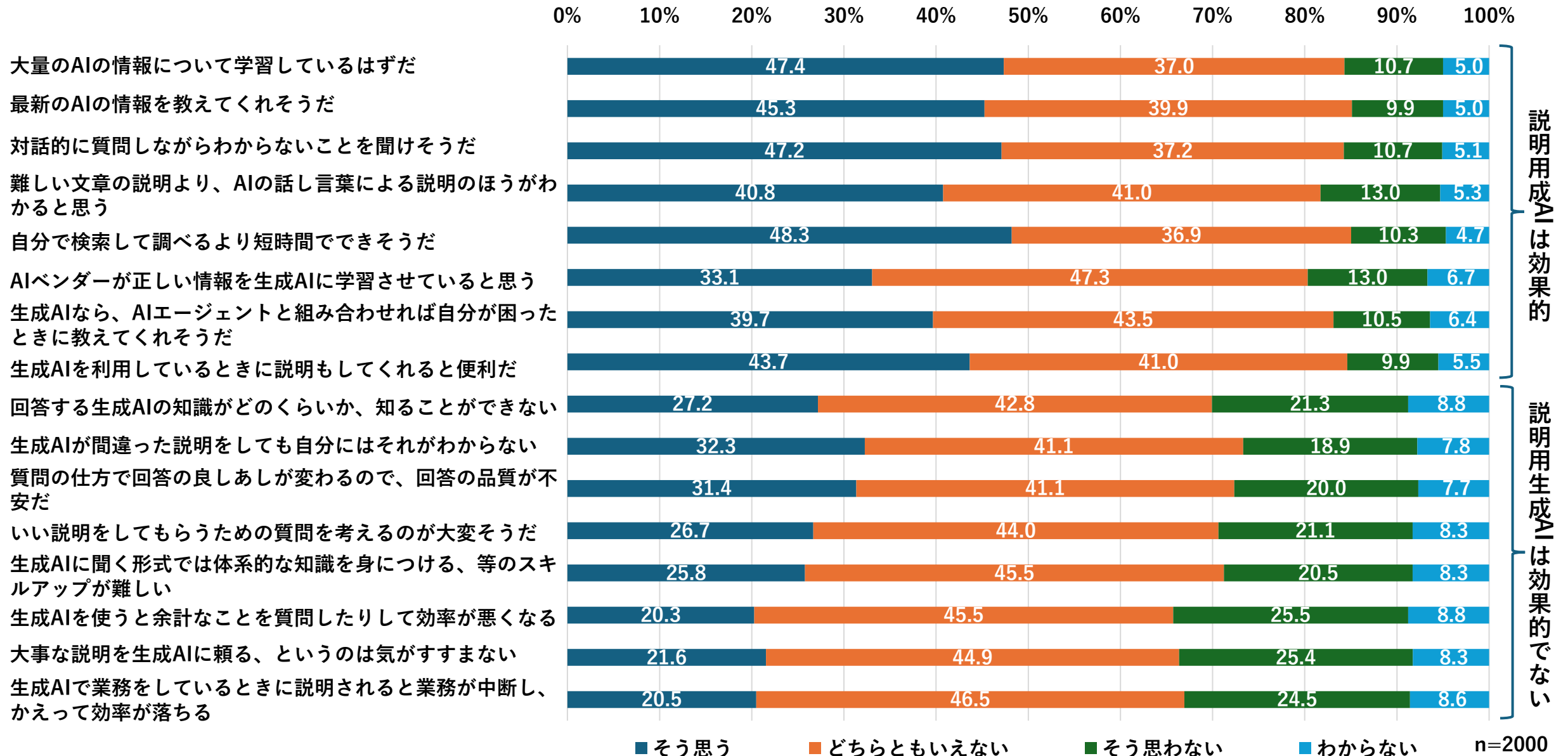
本質問19：説明用生成AIのニーズ

質問に応じて説明する説明用生成AIがあるとしたら、あなたは使いたいと思いますか？あてはまると思うものを1つだけ選んでください



本質問20：説明用生成AIに対する意識

説明用生成AIに関する以下の言明に、あなたは同意できますか。あてはまると思うものを1つだけ選んでください



本質問20：結果

結果

問19において、説明用生成AIを「使いたい」とする回答は「基本知識」が60%、他の項目は50%前後で「使いたくない」は11%未満だった。これらは2025年7月調査と同傾向である。

問20において、説明用生成AIが「効果的」とする言明は33～48%が支持した。一方で、「効果的でない」とする言明の支持は20～32%に留まった。

本質問21：説明の頻度・タイミングに対する意識

以下の各説明をどのタイミング・頻度でほしいと思いますか。あてはまると思うものを1つだけ選んでください

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

業務：AIで収集した情報の要約・分析／説明：要約・分析の処理経緯



業務：AIで収集した情報の信頼性チェック／説明：チェック結果の理由



業務：契約の完全性チェック／説明：チェック結果の理由



業務：AIで生成したコードの完全性チェック／説明：チェック結果の理由



業務：顧客情報を含む社内データの分析・文書化／説明：セキュリティ対策



業務：顧客情報を含む社内データの分析・文書化／説明：プライバシー保護対策



業務：顧客情報以外の営業秘密を含む社内データの分析・文書化／説明：セキュリティ対策



業務：コンテンツ生成／説明：コンテンツの生成処理経緯



業務：コンテンツ生成／説明：生成したコンテンツの権利侵害チェックの結果理由



業務：限定なし／説明：AIが回答を拒否した場合の拒否理由



業務：限定なし／説明：AIが大きな間違いを回答した場合の回答作成経緯



- 利用時に必ずほしい
- システム更新時等で定期的にほしい
- 要求したときのみほしい
- わからない
- ほしいと思わない

n=2000

本質問21：結果と分析

結果

全回答者に経験があると想定される生成AI利用の具体的ケースについて、望ましい説明タイミング・頻度を聞いたところ、ケースによらず「要求したときのみ（34～39%）」「定期的（25～30%）」「利用時毎回（20～26%）」の順となった。

分析

セキュリティ・プライバシー等の対策に比べ、**情報分析・信頼性チェック等の経緯説明への高頻度で求められている**。分析・信頼性チェックのフローが未整備であることを反映した可能性がある。

業種別では「建設」「医療・介護」「教育」が高い頻度で説明を求める傾向がみられた。

n 業種別の回答事例：情報要約・分析の処理経緯説明のタイミング・頻度

業種	n	利用時に必ずほしい	システム更新時等で定期的にほしい	要求したときのみほしい	ほしいと思わない	わからない	ほしい 比率計
流通小売	130	23.1	23.8	41.5	6.2	5.4	88.5
金融	90	20.0	32.2	37.8	6.7	3.3	90.0
建設	96	34.4	24.0	29.2	4.2	8.3	87.5
通信・ITサービス	284	21.8	26.1	39.1	4.6	8.5	87.0
教育	58	20.7	41.4	36.2			98.3
医療・介護	91	33.0	26.4	27.5	6.6	6.6	86.8

■ 利用時に必ずほしい ■ システム更新時等で定期的にほしい ■ 要求したときのみほしい ■ ほしいと思わない ■ わからない

4. 調査結果のまとめ

- 2025年7月調査と同傾向と確認されたこと
 - 業務AI利用者の70%以上がAI経験3年未満である。
 - 利用のために参照したい情報として基本知識が一位である。
 - 処理の透明性とリスク情報に関する説明の重要性認識は同程度である。
 - 説明を実践している組織の回答の50%程度で、実践組織は説明の重要性と課題を認識している。
 - 説明提供の形式は動画・プレゼンを含む複数メディアが有効である。
 - 説明提供のタイミングはAI利用時に自ら要求する、への要請が一位である。
- 今回調査で新たに確認されたこと
 - 判定（分類）AIの利用は20～40代が中心であり、生成AIの利用では年代的な偏りは小さい。
 - 20代回答者の説明の重要性やリスクへの認識は他年代に比べ低い傾向にある。
 - 説明の重要性認識の高い業種として「医療・介護」が確認された。

IPA